

会 議 録

1 会議名

平成28年度第1回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成28年4月13日（水）午後5時00分から午後6時05分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 増田和昭（会長）、青山恭造（副会長）、竹内明美（副会長）、
池田伸吾、今井不二子、小林克美、田村利男、田村雅春、中澤武志、
福島 弘、町屋隆之、丸山朝安、三上正子（欠席4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主事

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：竹内副会長、田村利男委員に依頼
議題【自主的審議事項】「直江津まちづくり構想」について、新水族博物館を活用した直江津のまちづくりの取組に関する意見書に関して、市から回答が来たので報告する。

資料No.1を御覧いただきたい。

昨日、新水族博物館整備課の課長が北部まちづくりセンターに来られ、「本来であれば、この場で協議会の皆さんに御説明させていただくべきだが、どうしても都合がつかない」ということで、資料No.1に基づき、正・副会長が説明を聞いた。

・資料No.1に基づき説明

第17回地域協議会で新水族博物館整備課とは、細かいところまで意見交換をし、回答をいただいたので、これからの2年間も引き続き、渋滞対策も含め、地域協議会と一緒に考えて行っていただきたいとお伝えした。

これについて、意見等はあるか。

【田村雅春委員】

「1意見書の要旨」の「(2)」内の『パークアンドライド』というのとは何か。

【増田会長】

交通渋滞のため、周辺に車を駐車して、公共機関を使い目的地へ向かうことである。

【町屋委員】

回答の内容で、皆さん、とりあえずは納得しているのか。文書に書かれていることを承ることで終わりなのか。

【増田会長】

これからいろいろ細かいことについて協議することが出てくるため、その事前確認ということで、お互いに共通認識を持ち、これから駐車場問題や渋滞対策や屋台会館の問題などは、これから意見交換をするなど進めることになる。私たちの意見書にも、細かいことは示していないため、意見書で確認し合ったということになるかと思う。

【町屋委員】

市では、やることはやっている。足りない部分はやってほしいという感じに捉えられる。

【増田会長】

その読み方で良いかと思う。これからは本当の勝負だと思っており、そのように理解していただきたい。

本件は、これで終了とする。

次に、資料No.2「直江津区の観光振興について」だが、今まで、文言の整理は大きな変更はなく、皆さんからいただいた意見を付け加えた内容になっている。当初、「意見書」

として出そうと考えていたが、意見書にするには具体性に欠け、基本的には、「地域協議会は、直江津区の観光振興をこのように考えております」という考えを行政に伝えるという趣旨であり、「意見書」ではなく、「提案書」として提出したほうが良いのではないかと、ということで、本件は、「意見書」ではなく、「提案書」として提出したいと考えている。前文は「上越市第5次観光振興計画を補強する提案書として提出します」というふうにしたいと思う。意見書だと、必ず回答しなければいけないが、この中身では回答しにくいということもある。提案書の場合は、必要に応じて回答するということになる。私どもも、そんなに強い意味ではなく、「お互いにこういう方向で考えていきましょう」という趣旨を、観光振興課に伝えるということであり、「提案書」という形で出したいと思うが、よろしいか。意見等はあるか。

【田村雅春委員】

確認だが、以前出した意見書の中身と今回の観光振興計画の提案書は連動している部分が多くある。観光振興計画に対する文言には細かく書いてあり、以前の意見書には「行政と連携してやりたい」という回答がきている。それで間違いないか。

【増田会長】

間違いない。いずれにしても、みんなどこかで連動して来るので、そういう認識で対処していけばいいと思っている。行政の担当課はいろいろ変わるが、私たちにとっては、「こういうまちにしたい」という理想像があるだけで、相手がどこであろうと、私たちの考え方は変わらないということになる。

では、資料No.2については、「補強する提案書」として提出したいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・平成27年度地域活動支援事業は、全事業が3月31日まで予定とおり完了したことを報告する
- ・内容については「事例集」が作成され、ホームページでも確認いただける。
- ・三の輪台施設の破損について、被害状況の報告

現委員の任期は4月28日までであり、現委員での協議会は、本日が最後である。各委員が4年間、活動してきた総括ということで感想等を、それぞれ、お話していただきたい。いただいた意見は、新体制になる地域協議会の活動に役立てていきたいと考えている。

【池田委員】

私は、上越市の現在の中心は、高田だと感じているが、歴史的にみると、直江津の周辺も含めて、直江津から広がっていたのだと思っている。今の直江津地域を元気にさせるだけではなく、直江津から発信して他の地域と統合的に活性化できないものか。特に問題なのが、地域協議会というのは、自分の地域だけを活性化させようというセクト主義みたいなものがあり、おもしろくない。特に、他でいろいろな行事を計画されているが、私たちはそれを知らなかったので、どんな行事があるのか知りたい、という思いが度々あった。更に、直江津地域でも、各町内でいろいろ工夫されている。それが全く交流されていない。前回の会議で「町内で活動していることを、観光に役立たせることはできないか」と発言したが、それは、直江津地域の中で、お互い交流し合った上で交流の会を作り、その中で発展的に観光にも利用してください、という発案があったら、望ましいと思う。

私は、上越市だけではなく、妙高市や糸魚川市も含めて広い地域を発展させていくという繋がりも期待したいと思っている。来年度辺りから、直江津地域だけではなく、他の地域と一緒にやるような事業も考えていい、というような意見も出たが、それに期待したいと思っている。

【今井委員】

平成21年度から地域協議会委員として活動させていただいた。当初、地域協議会とは、地域の問題や課題を解決するための場だと考えていたが、実際は、地域活動支援事業の採択審議に係る時間が多く、本当に住民の人たちが何を考え、何を要求しているのか、何を求めているのかというところまで踏み込んでいなかったように思う。最近になって、「新水族博物館を核としたまちづくり」ということで、住民の人を巻き込んだ話し合いも行われ、それを協議会でまとめ、市へ提案する、ということを行ってきたが、これは、「新水族博物館を核としたまち」ということと、本当に住民が求めているものとは少し違うのではないかと考える。私が住んでいる五智地区には、青少年文化センターがあったが、そこが取り壊された後、跡地に何もないので、子ども達の行き場所がなくなっているように感じる。天気が良いと外で体を動かすことができるが、雨だと家の中で運動をするということが出来ないので、五智歴史の里会館に来て、ゲームをしたり、遊んだりしていた。このことについて、付近の子どもを持っている方たちも含め、是非、体を動かして遊べるような場所がほしいという要求をされていたと思う。私は今後も向

き合って、住民の人たちの声をまとめて市へ伝え、市から提案が欲しいと思っている。

そして、他もそうだが、高齢者が一人暮らしをしている家が非常に多い。その方々に対する介護支援がなくなり、困っている人たちがいる。そういう方たちが集まってコミュニティをする場がない町内もある。そういう課題が多いのではないかと。もう少し住民の声を拾い上げて、住民は何を求めているのか、ということを知る必要があると思っている。それを取りまとめるのは地域協議会の役割ではないかと考える。

私は今回で地域協議会委員を辞めるが、引き続き委員をやられる方は、地域活動支援事業の採択審議に特化せず、住民が、どんなことで困っているか、どうしたら住みやすく、ずっと住んでいたいまちになるのか。そういうことを真剣に考えてほしい。地域協議会だけで進めるのではなく、本当に困っている人たちの声を集め、それをまとめて行ってほしい。それが地域協議会の本来の役割だと思っている。

【小林委員】

4年間やらせていただいた。地域活動支援事業を通して、皆さんのいろいろな思いが伝わってきて、勉強になった4年間だったと思っている。また、委員の方からも、いろいろな視点の言葉を聞くことができ、勉強になった。

今日、高田で若い方とお話する機会があったのだが、「直江津に飲みに来るのは好きだが、電車時間の最終が午後10時半までしかない」と言われた。直江津から高田に出る最終電車の話は初めて聞かされて「午後11時半くらいの最終電車なら、もう少し飲めて良い」という話をしていて。外から直江津がどう見えているのか、という視点も、再度考えなくてはいけないという感じがした。

また、次期もそんな目線を持ちながら頑張っていきたいと思っている。

【田村利男委員】

私が地域協議会委員になった4年間で感じたことは、現場を見るということ。私は水族博物館が好きで、年間4、5回行っている。横浜八景島が指定管理者になってから、だいぶ雰囲気が変わった。その他に現場を見るのが大事だと思い、いろいろな所を歩きたいと思っている。新聞記事も切り抜きし、今日は、三の輪台の記事も持ってきたところである。

【田村雅春委員】

私は、最初の頃から地域協議会委員をやらせていただいている。今期は違うが、前期までは、地域活動支援事業の採択審議で忙殺されたように思う。ただ、その中で、北陸

新幹線が開業して一年経った。開業前と開業後の直江津のまちの実態を見ると、今までの特急が通らなくなった。新しい鉄道会社ができる。それに対する利便性。その中で、住民自身が、どうやったら直江津をもっと活性化できるのか。中心市街地を活性化できるのか。直江津駅も130年が経ち、非常に歴史があるが、街なかは、少し寂しいように思う。それでも、そこから這い上がるように、何とかまちに賑わいを取り戻そうという動きが、私自身も持ってきたし、地元の中からも、いろいろな方から発信ができるようになったのは、非常に素晴らしいし、北陸新幹線ができる前の方が根を作ってきたということが、非常に良いと思っている。地域活動支援事業の中でも、そういう発信があったと思う。今後も期待し、引き続き頑張っていきたいと思っている。

【中澤委員】

地域活動支援事業の審議を通しながら思ったことは、直江津にも結構やる気のある方がいて、捨てたものではないと感じた。

私は、町内会長をやって8年目になるが、町内の人口、所帯が減り続けている。店は一軒もないという状況である。こういう状況が直江津全体でもあるのではないかと思う。一部の地域では、人口が増えたと喜んでいるが、年々、高齢化が進む中、水族博物館を核としたまちづくりの取組や観光振興に重点が置かれているが、暮らしに密着した問題を取り上げ、新しい提案ができればと思っている。

次期もやらせていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。

【福島委員】

私は、利用者の立場で直江津学びの交流館のネーミングから携わってきた。当時から、駐車場問題でいろいろ申し上げてきたが、ようやく、日本たばこ産業の跡地を駐車場にするというような話が持ち上がってきた。どうなるかは分からないが、そうなれば良いと考えている。ただ、残念なのは、直江津学びの交流館との会議の資料の中で、駐車場の係員の評判が悪いと指摘されていたことであり、しっかり改善していただきたいと考えている。

そして、地域活動支援事業だが、もっと大勢の方々が参加できるような提案がほしいと考えている。特に、子供たちが参加できるような事業を考えていただきたい。

【町屋委員】

地域協議会は平成21年度から始まったが、私は当時30代だった。生意気だと思われるかもしれないが、議論してこそだと思い、毎回望ませてもらっている。

地域協議会は、一義的には諮問機関であるということは間違いなく、そこはきちんとやらなければいけない。だが、その他にもっと出来る事があるなら、そこにも手を出して行きたいというのが、皆さん思っていることだと思う。先ほど今井委員がおっしゃったのも間違いのないところだと思う。ただ、その中で何ができるのか。我々でも出来ることと出来ないこと。例えば、住民の人の声を細やかに拾うことが我々の仕事なのかどうなのか。そこには、町内会長やいろいろな組織の方がいるので、そういう所との連携は必要だと感じている。

今、水族博物館を活用したまちづくりに特化している。まちとして構わないと思うが、そこに乗らない人はいない。せっかくのチャンスだから乗るのは間違いはないが、それだけでまちづくりが完結する訳ではない。例えば、新幹線だが、開業前の盛り上がりと開業後の現状を見れば、水族博物館は効果が続くものだが、そこにおんぶに抱っここのまちづくりで良いのか。それよりも、もっと不変的なものもあるのではないか。ただ、我々は声も出しづらいし、手も出しづらいというものもあるが、一つひとつ、暮らしやすいまちづくりというものを、もっと議論できればと思う。これを言い出すと、会議数が多い直江津区が、もっと回数を増やさなければならないが、そこまで踏み込んで初めてやりがいが出てくるのかと思う。やりたいところに手が出てくるのかと思っている。

次期委員に若い方が入ってくれるかどうかは分からないが、年を取っても生意気のままなのでよろしくお願いいたします。

【丸山委員】

次期委員にも応募させていただいた。地域協議会を通して感じたことは、今井委員も言われていたが、私も理解不足だったと感じている。何かを協議会で揉んで、市へ意見を言ったら、それが叶うのではないかと考えていたが、実際には、そんなことはなかった。

長野へ何回か行くが、長野の人たちの商売のうまさ、観光のうまさ、これは素晴らしいと思っている。日本国中、生産で物事をやるということは、頭打ちになってきて、世界中の人を呼んで観光立国にしようとなっている。そうすると、上越市も就職する場所がないから都会へ出たまま帰ってこない。要は生産がないので、そこで何かをしようとしても、全国的に観光立国みたいな形で物事をやろうとしている。これに乗ろうとしているというのは分かるが、逆に言ったら、市役所の方たちや議員の目を開いて、長野の人たちのことを勉強してほしいと思った。

長野のお土産には「真田丸」がたくさんあるが、「真田丸」はお父さんと幸村の話だけではない。「真田三代」というものもあり、同じお菓子ではないと思って購入したが、梱包材を変えて二種類出して、中味は同じだった。

白馬から新潟へ来る道、小諸へ行っても、どこへ行っても「真田丸」のお土産がたくさんある。そういう瞬発力に懸ける、と言った時のすごさ。これは、お店の人も、市役所の人も、「ここだ」と思ったら、長野の人はすごくお金を掛ける。何故、市でそこまでできるのか。長野市役所が長野県庁と一緒にいるから、新潟県庁と新潟市役所みたいな感じで、新潟市だけが発展するのと同じような感じで、長野のまちが発展するのは分からないが、善光寺があり、観光県というものが、元々染みついているのだと思っている。長野のようになればいいが、上越市も目を覚まして、観光に生きるなら、もっとお金を掛けてほしいと思っている。

【三上委員】

4年間、大変お世話になった。私が地域協議会委員を引き受けた時、何も難しいことを考えずに参加したが、難しい議題が、次から次へと審議されてきたというのが私の感想である。ただ、地域協議会委員をやらせていただいたおかげで、市政に関心を持つことが出来た。それは、自分としては成長したと思っている。皆さん、いろいろな御意見を言われたが、私も会議の時に、何か意見を言いたいと思いつつも頭の中でまとめている内に、他の委員の方が同じようなことを言ってくれた。私が発言した回数が少ないと思うが、同じように考えている方がいると思えて良かった。ただ、女性の方が非常に少ないというのが、残念である。今回も何人かの方に声掛けをしたが、「私はできない」と言う方がおり、その辺をどのように克服するかが、これからの課題だと思っているので、御検討いただきたい。

【竹内副会長】

未熟者の私が一期目、二期目と副会長をやらせていただいた。皆さんから温かい目で応援していただき、お礼を言わせていただきたい。おかげさまで、内弁慶の私が、少し話せるようになった。

この会議は公開会議なので、私が望む「楽しく」という会議ではないが、一期目で辞められた方が「何をここで議論するのか分からない会だし、雰囲気あまり良くない」ということを言われた。二期目も「ここに居づらい」という意見を聞いた。こんな雰囲気では、より良いまちづくりはできないと思う。公開会議で録音するというのが建前だ

が、録音を止め、少しフリータイムのような時間を作ってください、もう少し楽しい会議、お話したことがないような人がいては困るので、皆さんの気心が知れるような雰囲気が良いと思っている。

地域協議会というのは、より良いまちづくりをするために、みんなで楽しく、そして意見を出し合うというのが本来であると思っている。その中で、マナーが悪いという意見もあるので、人が意見を聞いている時は、頷いて傾聴し、途中でブツブツ呟いたりしない。否定的な目で見ない。そういうことも会議のルールとして守っていただきたいと思っている。

【青山副会長】

直江津区の地域協議会委員として「こんなふうな直江津にしたい、あんなふうな直江津にしたい」という思いから、地域活動支援事業のいろいろな提案を一緒になって考えられたことは非常に素晴らしいことだと思っている。これからも地域活動支援事業を通じて直江津区が一緒になって将来を考えれば、もっと良い物が出来るのではないかと考えている。

そして、一期目の時、委員の方が体調を崩し亡くなられた。二期目の時も一人亡くなられた。今回で辞められる方も、続投される方も、是非、健康に留意し、これからの直江津をみんなで考え、一緒になって話が出来れば良いと思っている。

【増田会長】

最後に私から一言。今後に向け、私が考えていることは、平成27年度内に地域住民の方、団体の方、女性の方々と意見交換ができたことは、新しい方向が出たと思っている。三上委員から「女性の委員を」という話があったが、手を挙げていただくのは難しい状況だが、そうだとすれば、女性の皆さんのところへ行き、集まっていたいて意見を聞くということをするれば良いのではと思っている。

そして、「一歩進んで、住民の皆さんと」という話もあったが、次期委員の皆さんには、出前で住民の皆さんの意見を聞く、ということをやったらどうかと考えている。具体的には、担当を決め、委員から、二人か三人一組で、それぞれの地域の場所と時間を決めていただき、そこへ行き、地域の皆さんから意見を聞く、ということを考えている。

そして、JTの跡地利用の件については、私たちの力が、どこまで届いたのか分からないが、一つの方向になってきた。これから、住民の皆さんから、跡地をどのような使い方をしたら良いのか提案をいただくと、市長が議会で答弁しているので、今後、地域

協議会としても慎重に取り扱っていきたいと思っている。

「観光振興計画」という話があったが、たまたま、観光振興計画について、一つの体系的なものできた。上越市内には「福祉計画」や「子育て計画」等、いろいろな計画があるので、その「直江津バージョン」というのを作っていったら良いのではと思っている。

そして、会議の雰囲気の話があったが、私はいろいろな所へ傍聴に行っているが、他の協議会はものすごく形式的で、なかなか発言しにくい雰囲気がある。区によっては、指名する際「〇〇委員」というふうにしていたが、私は「〇〇さん、お願いします」というようにやってきたし、皆さんのおかげで、一つの雰囲気づくりが出来てきたのだと思っている。私は、引き続き、委員をやらせていただき、ぜひそういう雰囲気を作っていきたいと思っている。

それから、「あれがやりたかった、これがやりたかった」というのがあるが、前回、皆さんから意見をいただいた時に、これからは「市がどうの、こうの」ではなく、「私たちがどうやる」というふうに、主体的に考えないと駄目だと思うので、若干、勇み足になっても構わないので、主体的にやっっていこうと考えている。

次回以降も、直江津区地域協議会を中心として、直江津のまちづくり、活性化に役立って行けば良いと思っている。

最後になるが、事務局の皆さんには、私たちと市との間に入って、いろいろ御苦労され大変お世話になった。そして、住民の皆さんから、いろいろな苦情が来ていることも承知しているが、それを前面に立ち、全て受けていただいた。感謝申し上げたい。

そして、報道の皆さんも、直江津区地域協議会に取材に来ていただき、適宜、適切に報道していただいた。このことについても感謝申し上げたい。

以上、総体的になったが、私の感想としたい。

【荒木係長】

- ・次回以降の協議会について報告
- ・次回協議会の事務局案：5月11日（水）～13日（金）か16日（月）、17日（火）

【増田会長】

— 日程調整 —

平成28年度第2回目は、会長、副会長の選任、委員の役割や地域協議会の役割を確認する会にしたいと思っている。新しい方が来るので、十分に理解していただいた上で

出発しないとイケない。途中でいろいろな問題があっては困る。

第3回目は、地域活動支援事業の提案書が出てくるので、その説明会となる。これも、新しい委員の方にとっては、初めてのことなので、少し丁寧にやる必要があると思っている。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。